

獄 中 記

<福山辰夫>

第 八 回

皇紀 2653 年【平成 5 年・西暦 1993 年】

11月12日(金)

終日、工場では写植文選工として「ワープロ作業」に従事。夕餉後、宗教教誨『神道』に同僚のY氏（盛岡市住人）と、隣房のO氏（水戸住人・住吉会中原会系）等と出席する。

本日の教誨師は、『宮城県神道政治連盟』に加盟する「菅野先生」。今回の教誨が教誨師として初めて宮城刑務所に来所したとの事で、自己紹介から入る。先生の家系は代々神職であり、本人も神職に就くべく國學院大學を卒業したバリバリの神官だ。まだ、見た目には四十を過ぎた位であろうか、神官としてはまだまだ若い方であろう。

今日の講話内容は、祝詞と吉田松陰について…熱く語って頂く。特に、その中で神社の神殿に祀られている鏡は、当然ながら御神体ではあるけれども、それ以外に「己の姿を映し出すもの」だという。更に、仏門と同じ様に神職にも階位があるらしい？

『浄明正直』（じょうみょうせいちよく）。つまりは、「浄（きよき）・明（あかき）・正（ただき）・直（なおき）」、これを一言でいうと「真心（まごころ）＝誠の心」である。そこから、神職の階位もこの言葉から用いて、上から順に「浄階（じょうかい）・明階（めいかい）・正階（せいかい）・権正階（ごんせいかい）・直階（ちよっかい）」となっている。

そして教誨の最後に、三島由紀夫の話として『自立、それは自己確立である』と、言って彼は自決したと教えて頂く。僅か1時間程であったが、誠に有意義な時を過ごした感有り。ただ、この御縁も社会に居て無為に過ごしていたら、絶対に出会わなかった縁（えにし）ではなかろうか。

11月18日(木)

両親の面会が有り。常に迷惑ばかり掛けている馬鹿な倅の為に、今日も本や日用品の差し入れをして頂き、誠に申し訳ない次第也。

11月20日(土)

午前10時から、慰問演芸『志賀勝ショー』が催される。前座で女性歌手が歌い、メインの「志賀勝」が登場する。今回は、誰の所に入った慰問かは不明だが、本人が登場したと思ったら、突然舞台の中央で土下座をするので、講堂内は暫しどよめく。確かに、全国で起きた「抗争事件」等でジギリを掛けて長期刑を務める有名人が多い宮刑であるが、頻りと頭を下げて謙遜する「志賀勝」に、却ってそこまでしなくても良いのではと思うのだが？

11月23日(火) 勤労感謝の日

累進級が「3級」となった事で、宮刑に入所して初めての『3級会』に出席する。

作業賞与金の中から、事前に『賞与金使用願』願箋を記載、提出。

「缶ジュース」1本と「お菓子」2品を購入して、講堂に集まりVTR視聴を行ながら、飲食をするというもの。午後からは、夕点検迄「臨地」に勤しむ。

11月24日(水)

『圖南書道會』今月の課題(漢字部・規定)作品を、工場担当を介して教育課へ提出する。

また、本日は仙台で初雪となり、愈々「みちのく」の長い冬が始まると思うと、小生の天敵は風邪である。兎に角、予防措置としてマメにうがいと手洗いを励行するしかないだろう。

11月25日(木)

本日から、工場で「ストーブ」の使用が許可となる。数日前に「営繕班」によって機器の搬入があり、工場内に2台の石油ストーブが設置されるが、これがまた全く暖かくない。

だいたい、ストーブが一番近い役席の小生が暖を取れない程、火力が弱い代物。

昼餉後は『書道教室』が行われ、教育課係長の嶺岸担当が迎えに来る。この嶺岸係長には、日頃から小生も世話になっているものの、懲役側からすれば好い担当も官側から見れば、ウザイことこの上ないのであろう。官の方針に逆らい懲役側に立つ看守は、定年退職間近であろうと露骨に閑職へと追いやるのだ。然れども『書道教室』は、鈴木登郁先生を講師に迎え、皆で和気藹藹と教えるを受ける。

11月26日(金)

工場定期配本日に付、購入の週刊誌1冊と領置下付本として『項羽と劉邦(中)』(司馬遼太郎・新

潮文庫)、『劇画小説吉田学校 19 巻』(原作:戸川猪佐武、さいとうたかを・読売新聞社)の2冊が手元に届く。

11月27日(土)

東北地方の広い範囲で地震が有り、仙台では「震度4」を観測する。特に、東北地方の太平洋底に海岸線にほぼ並行して『日本海溝』(にほんかいこう)があり、『太平洋プレート』が日本列島の地下へと沈み込んでいる事から、プレート境界面では「プレート境界型地震」が発生すると、大地震になる可能性が大と指摘されている。1978年6月12日の夕方に発生した『宮城県沖地震』は、宮城県東方沖を震源とする「M7.4」の地震で、仙台では「震度5」を記録した。

毎日のように、夕方になると地震発生時間に合わせて『TBCラジオ』(東北放送)が、周期的に何時大地震が起きても不思議ではないと警鐘を鳴らすコマーシャルを流している。

圀圍の中(うち)で大地震が来たらどうなるのであろうか、看守らは「この建物は震度7でも壊れない設計になっていて、この建物が壊れる程の地震だとしたら、仙台市内は壊滅して誰も生きていない…」等と言うが、自分らが真っ先に避難するのではないか?

午後からは夕点検迄、筆を執り「臨地」に勤しむ。

12月1日(水)

本日、1日付で『6か月無事故』となり、「無事故章(赤線1本)」なるものを交付される。6か月位では、別段何ひとつとして小生の利益になる事もないが、工場上衣の左袖の上部に付けろとの指示なので、昼の休憩時に担当から針と糸の貸与を受けて、「無事故章」用の小釦を縫い付ける。

12月2日(木)

工場定期発信日にて、父宛に便りを出す(便箋7枚)。

尚、今年は教育課長の提案で『BOOKフェア』なるものが催される。これはどういった催しかというと、普段懲役が買っている本を納入している業者(本屋)が、講堂に長机を並べてその上にジャンルを問わず、何千冊もの本を展示即売会行うというもの。

即売会は2日間で、各工場の運動時間を利用して定期私本購入以外に、この年末年始の連休用として2冊迄の特別購入(合計金額が3,000円以内)が出来る。但し、これは強制ではないので欲しくない者は購入しなくても構わない。13工場と運動が一緒の10工場(印刷)掃扶で、既に13年を務める「住吉会音羽一家」のKさんが言うには、以前にも今回のような「即売会」的な事は

行われていて、此処数年は中止されていたらしい。早速、小生も『武士道 BUSHIDO』（新渡戸稲造、奈良本辰也：訳、解説・三笠書房）と『日本神話の考古学』（森浩一・朝日新聞社）の2冊を手に取り、その場で『特別購入願』（教育課長宛）と『領置金支払願』の願箋2枚を記載し、提出する。

12月5日（日）

免業日だが、午前9時30分から10時30分迄、宗教教誨『神道』があり、同房のYさん（盛岡市）と隣房のOさん（水戸市）と3人で出席する。本日の教誨師は「坂本先生」で、仙台市青葉区桜ヶ岡公園に鎮座する『櫻岡大神宮』（さくらがおかだいじんぐう）の宮司である。

教誨の内容は、本年（平成5年）は『伊勢神宮』に於いて、20年毎に社殿を造り替える「式年造替の制」（式年遷宮）があったとの事。ところで、この遷宮の制度は天武天皇の御発意により始まり、持統天皇の御代の690年（持統天皇4年）に第1回が行われ、戦国時代には一時の中断・延期があったものの、今回が第61回目となり、1300年という長きにわたって続いている「神道」に於ける最大の行事であるという。

午後からは、テレビVTR視聴もかじかむ手で筆を執り「臨地」に勤しむ。

12月8日（水） 大東亜戦争開戦記念日

1941年（昭和16年）12月8日、我が国は「ハワイ真珠湾攻撃」と「マレー上陸作戦」を同時に敢行し、米英に宣戦布告する。これは、欧米列強に対する「我が国の自衛」と「亜細亜解放の大義」を掲げて、1945年（昭和20年）8月15日の「終戦の詔勅」迄、長きにわたる戦火を交えることになる。だが戦後は、GHQ政策によって「日本精神と家族制度」は解体され、民主主義という「平等と自由」の名の下に、自国のみの豊かさを求めて経済至上主義に走った日本人に対し、世界の国々からは『エコノミックアニマル』と揶揄される事になる。

現在の、この出鱈目な自由主義と平和ボケした我が国の惨状を見て、英霊として靖國に眠る御霊は、さぞや嘆き悲しんでいることであろう。この墮落しきった祖国日本を救う道は『維新断行』しかなく、この儘、政治も経済も落ちるところまで落ちてしまった今日、日本人の全てが覚醒しなければ、この国を蘇生させる術はないのではないかと思う。

「中原還（ま）た鹿を逐ふ、筆を投じて戎軒（じゅうけん）を事とす。

縦横計（はかりごと）は就（な）らざりしも、慷慨（こうがい）志は猶（な）存（ぞん）せり」

（唐詩選・魏徵「述懐（おもひをのぶ）」）

慷慨の志こそが、祖国日本を救う道也。

12月9日(木)

11月分の賞与金教示有り。「4等工+3割増」=3,429円也。ひと月頑張って、漸く3,000円を突破する。

12月10日(金)

誕生日となり、今日で「満29歳」となる。20代最後の1年も、当然乍ら囿囿の中にて、今は只管に試練の時也。況してや出所する我が身のことなど、ゆめゆめ考える可からず。

12月15日(水)

高島義雄親父の命日。早いものでもう1年が過ぎたが、囿囿の中に暮らす所為か、未だに親父が鬼籍に入ったという実感がない。単調なる日々の生活は、偶に目標を見失いそうになる時もあるが、この節目の日を以って心新たに、そして亡き親父の言葉を忘れずに残刑期を務めるべし。

12月16日(木)

本日は、年に一度の『雑居総転房』が実施され、「2舎3階6室」から「2舎3階7室」へと転房となる。今回の同房者の顔触れは、福島のKさん、北海道出身のOさん、茨城県出身のNさん、地元・気仙沼市で同じ歳のUさん(五代目山口組三代目山健組系)、地元・石巻市のKさん(住吉会西方一家阿部組)、そして、小生を含む6名。昼餉後は『書道教室(3班)』が催され、無期刑のSさん(秋田市出身)と午前中の総転房にて同房になったばかりのKさん(福島市)と出席する。

12月18日(土)

午前9時30分から11時30分頃迄、講堂にて「映画上映会」が実施される。

上映作品は、邦画で『スペインからの手紙』(製作:松竹、トーハン。配給:松竹。1993年公開。出演:緒形直人、原田知世、大川陽子、藤田まこと、佐久間良子ほか。脚本・監督:朝間義隆)。

スペインに実在する共同体「ベンポスタ子ども共和国」を舞台にしたヒューマンドラマ。

母の死から自閉症になり、ベンポスタに入国した日本人少年が、やがて朗らかさを取り戻し、サーカス団の一員となって来日をし、兄との感動的再会を果たす。スペイン語で「オラ」とは、日本語でいう「こんにちは」という意味であり、異国で暮らす少年がこの初めて覚えた言葉で周囲に溶け込んでいく様に、柄にもなく感動して臉に熱いものが込み上げてくる。

ここ最近見た中では佳作である。午後からはテレビ視聴も、筆を執り「臨地」に勤しむ。

12月19日(日)

午前中は、12月生まれの『誕生会』が催される。13工場からは、同房のNさん(茨城県岩井市出身)と白い粉の運び屋のSさん(台湾出身)と出席。

講堂に集まり、人数も少なく寒い中、篤志面接委員の先生の講話を拝聴し、その後は「汁粉」が給与され、その場で喫食。ただ、「汁粉」とは名ばかりの水っぽい汁に、餅の代用として小麦粉を水で捏ねた水団(すいとん)が入った代物。屹度、早朝より「炊場」(すいじょう)で用意をしたのであろうが、すっかり冷めていてとても食べたモノではない。

講和後のVTR視聴は、『水戸黄門』(TV録画もの)1話分を視聴する。最も、台湾人のSさんは、メリヤス肌着の上下2枚を着込んで出席しているのだが、寒くて堪らないのであろう、ブルブル震えながら視聴している。舎房の中も寒い。今日も午後は、「臨地」に勤しむ。

12月21日(火)

白物4点の一斉交換有り。白物4点とは、「毛布カバー・襟布・枕カバー・敷布」の事。宮城刑務所の場合は年に1回だけ『総転房』後に、必ず真つ更に交換となる。

12月23日(木) 天皇誕生日

本日は、『天長節』。午前中は、キリスト教の牧師たちによる『クリスマス会』が催され、同房のKさん(福島市)と隣房のSさん(台湾出身)に誘われ、話の種にと出席をする。仙台では、今冬になって初めての「冠雪」を記録。いみじくも、一日早い「ホワイトクリスマス」となる。

12月24日(金)

工場私本配布日に付き、購入の週刊誌1冊と、領置本の下付を願い出していた『項羽と劉邦(下)』(司馬遼太郎・新潮文庫)と『劇画 小説吉田学校 20巻』(原作:戸川猪佐武、さいとうたかを・読売新聞社)の計3冊が届く。また、過日の「BOOKフェア」に於いて領置金購入した2冊も同時に交付される。

12月25日(土)

暦の上では、キリストの生誕祭となる『クリスマス』であるが、有難くも夕餉後に副食として、「ショートケーキ」(1ヶ)が給与される。しかし、常に泣き言ばかりいう懲役が多い。

「圀圀の中(うち)」にて暮らしつつ日々精進する身には、彼是と文句ばかりを言ったところで

キリが無いであろうに…。だから、小生は今後も「志」は高く掲げ、今に生きる日本人のひとりとして「国家に対して、何かしらの礎石となれば好い」と思う次第也。

12月27日(月)

宮城刑務所に入所して以来、初めての「掛毛布」(但し、貸与されている「掛毛布」の内、一番貸与年号が古い物1点を提出する)一斉交換有り。まあ、こうして官物であっても「真っ更」に交換されると、懲役とはいえど新年を迎えるにあたり気持ちが好いものだ。

12月29日(水) 御用納め

本日は「半ドン」となり、出役後は通常のワープロ作業を行い、午前11時過ぎより役席及び身の回りの「清掃」を行う。昼前に警備隊の指示で、各工場が還房を始める。但し、『年末年始の長期連休』に入る為、舎房棟入口の手前で「持ち込み手箱」の検査と、全員が「金属探知機」による衣体検査を受ける。還房後は、直ぐに「仮点検」。そして昼餉、その後は看守の号令で15分程度の「舎房大掃除」を皆で行い、夕点検迄は各工場単位で「総入浴」が実施される。

※連休期間中は「処遇の一部変更」があり、仮就寝が17時30分。起床時間が8時20分。昼餉後の13時～15時迄は、布団を敷いての午睡が許可となる。

12月30日(木)

午前中は、舎房にてテレビVTR視聴が有り。『ランボー 怒りの脱出』(製作：米国。配給：トライスター。1985年公開。出演：シルベスター・スタローン、リチャード・クレンナほか。監督：ジョージ・P・コスマトス)。服役中のジョン・ランボーを元上官であるサミュエル・トラウトマン大佐が訪ねる。大佐は「特赦」と引き換えに極秘任務を行うようにとランボーを説得。

その任務とは、戦時中ランボーが脱走したベトナムの捕虜収容所付近に侵入をし、戦後10年以上が経過した今なお囚われている戦争捕虜の証拠写真を撮影して帰るという事だった。痛快アクション映画であり、脚本を担当したのがシルベスター・スタローンとミリタリーマニアで知られるジェームス・キャメロンであるところから、ベトナム戦争当時の兵器をリアルに再現している。

日々、刺激の少ない圀圍の中にて、偶には派手なドンパチものも良い。

午後は、圖南書道會『平成6年度第一期漢字部昇位試験』が実施されることから、来月末の作品提出に向けて「臨地」に勤しむ。また、夜は早目に床を敷きテレビ視聴をおこなう。

12月31日(金) 大晦日

午前9時30分から11時30分迄、テレビVTR視聴有り。『バックドラフト』（製作：米国。配給：ユニバーサル・ピクチャーズ。1991年公開。出演：カート・ラッセル、ウィリアム・ボールドウィン、スコット・グレン、ジェニファー・ジェyson・リー、ロバート・デ・ニーロほか。監督：ロン・ハワード）。

消防士の兄弟を主人公に、火災現場での活躍と葛藤の物語。この映画のタイトルである「バックドラフト」とは、火災現場に於いて特定条件下で爆発が起こる現象のことで、映像の中でも何度となく起こり多数の消防士が殉職する。それは連続放火事件とも重なり合うという物語。

午後は、テレビ視聴も昨日同様に筆を執り「臨地」に勤しむ。通常休業日の時間帯で夕餉を採り、17時過ぎ頃「年越しそば」（カップ麺）が給与され、夜勤看守の配湯により舎房で食す。

尚、カップ麺容器の空下げの際に恒例の「袋菓子」が給与となり、夜のテレビは18時30分から『輝く！日本レコード大賞』。20時からは『NHK紅白歌合戦』と視聴。皆一様に、布団の中で横臥しながら子供のようにお菓子を喫食する。23時50分、夜勤看守が廊下スイッチのテレビ用電源を切り、ラジオ放送用の電源が入り『ゆく年くる年』がスピーカーから流れる。

就寝迄の10分間で急ぎ用便を済ませ、午前零時の時報で「減灯・本就寝」となる。

これも毎年の事だが、必ずや何処かの舎房で新年の挨拶を交わし合い「不正交談」で連行され、取調べになる者がいる。「新年の計は元旦にあり」というが、新年早々に保安課で説教をくらのうのでは洒落にもならない。興奮して寝付けぬ中、近くに寺があるのだろう。

静寂（しじま）の中、除夜の鐘を撞く音が響く。